

本年6月15日より、広島において第58回日本東洋医学会学術総会が開催される運びとなった。開催にあたり、会頭の十河 孝博先生から、今回の学術総会にむけてのメッセージをいただいた。

第58回日本東洋医学会 学術総会にむけて

ご挨拶

会頭 十河 孝博(十河医院 院長)



第58回日本東洋医学会学術総会は、本年6月15日（金）より3日間、広島平和記念公園の中にある広島国際会議場で開催を予定しています。

広島での学術総会の開催は、今回で3回目になります。21年前の第2回学術総会（会頭 小川 新）では、中国・四川省の成都中学院（現 成都中医药大学）から、郭子光先生ら2名の老中医を招いて、学術総会史上初めての日中伝統医学学術交流会が開催されました。この学術交流会は、カネボウ薬品の仲介で四川省衛生庁・副庁長の任長方先生を紹介されたことで実現したことを想い出します。これが契機になって、日中学術交流が日本各地で盛んに行われ、われわれはそこから中医学を学ぶことができました。

21年後の現在、中国政府の国策によって、中医学は世界中に広まりました。その結果皮肉にも、東洋医学の先進国であった日本は国際的に立ち遅れることになりました。この日本の立ち遅れの問題が今回の学術総会の主なテーマの一つです。そのために、中国、韓国、米国から講師を招き、日本を含めて各国の伝統医学の国際化の現状を語っていただき、その後、各講師と会場の出席者も加わって討論し、国際化の問題を考えたいと思っています。

さらに、日本の最長老である山田光胤先生にも加わっていただき、各国の講師とともに、会場とは別の部屋で患者さんを診察していただき、その診察・診断風景をライブし、会場では寺澤捷年先生の絶妙な司会で、参加者には国際的な雰囲気を味わっていただきたいと思っています。

さらに「東洋医学を英語で語ろう」という企画もあります。本企画では参加者は英語だけで語り合っていただき、国際化には英語が不可欠なことをアピールしたいと考えています。

このように今年の学術総会では、今までの学術総会にはない新しい企画を盛り込んで、国際平和都市広島にふさわしい学術総会を目指しています。

日本の東洋医学を巡る次の課題は、東西両医学の融合、統合の流れです。この流れは西洋医学に限界を感じた人たちからのものです。これは人類のために是非とも実現したい、21世紀の最も重要な課題だと認識しています。しかし、この実現を夢見る人は多いのですが、具体的にどうすればよいのかということになりますと、はたと立ち止まってしまいます。

今回の学術総会で、われわれはこの具体化の問題に果敢に挑戦してみたいと考えており、そのために、まず先端科学（素粒子物理学）を極められたノーベル賞者の小柴昌俊先生、それに東洋医学にご理解を示しておられる西洋医学のトップである日本医学会会長 高久史磨先生をお招きして、両先生から全く質的に正反対ともいえる両医学間の架け橋となるようなお話を聞ければと思っています。

また、私の会頭講演では「東洋医学と西洋医学を繋ぐ経絡」と題して、経絡が両医学間の架け橋になることを具体的にお話する予定です。さらにシンポジウム「東西医学の融合に向けて－21世紀の医療の中核をつくる－」でも具体的な提案がなされます。

学術総会のテーマは「転換期にある東洋医学－更なる飛躍を目指して－」となっています。今回の学術総会を機に、日本の東洋医学が国際化と東西両医学の融合、統合への道を歩むことが出来れば、更なる飛躍は可能になります。是非とも、多くの方々のご賛同とご参加をいただき、広島での学術総会を盛り上げていただきたいと願っています。

第58回日本東洋医学会学術総会

プログラム概要（予定）

1. 会頭講演

十河 孝博（十河医院院長）
「東洋医学と西洋医学を繋ぐ経絡」

2. 特別講演

- ① 小柴 昌俊（東京大学特別栄誉教授）
「素粒子学者からみた東洋医学」（仮題）
- ② 高久 史磨（日本医学会会長）
「東洋医学に期待するもの」（仮題）

3. 招待講演

- ① 田辺 敏憲（富士通総研主席研究員）
「統合医療の科学技術戦略」（仮題）
- ② 波平 恵美子（お茶の水女子大学名誉教授）
「医療人類学から見た東洋医学」

4. 教育講演

酒谷 薫（日本大学脳神経外科教授）
「伝統医学と先端科学の融合に向けて」

5. 特別企画「ボーダレス時代の東洋医学」

招待講演

- Craig E. Mitchell（シアトル東洋医学研究所）
「My Experience Practicing East-Asian Medicine in the United States in the 21st Century」
- 陳 貴延（中国中医新聞社長）
「中国における東洋医学の現状」（仮題）
- 金 英信（韓国東洋医学会副会長）
「韓国における東洋医学の現状」（仮題）

シンポジウム

- 渡辺 賢治（慶應義塾大学）
安井 廣迪（日本TCM研究所）
上馬場 和夫（富山県国際伝統医学センター）

討論には、Craig E. Mitchell、陳 貴延、金 英信、田辺敏憲氏も加わります。

6. シンポジウム

- ① 「傷寒論再考」－東洞生誕の地にちなんで－
- ② 「東西医学の融合に向けて－21世紀の医療の中核をつくる－」
- ③ 「生薬の基礎から供給まで」
- ④ 「穴位療法の基礎－鍼・灸・刺絡－」

7. ラウンドテーブルディスカッション

- ① 「地域医療への東洋医学の可能性を見る」
- ② 「劇的に効いた症例」
- ③ 「東洋医学を英語で語ろう」